

【参考資料】

主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて

平成31年度版



目 次

☆ 学校教育指導の重点 全体構想	1
☆ 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて	2
1 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業づくり	
ポイント1 単元をつくる・授業をつくる	4
ポイント2 教材との出会い・学習課題の把握	6
ポイント3 追究・解決〈計画・方向付け・見通し〉〈個での追究・解決〉	8
ポイント4 追究・解決〈ペアやグループ・学級全体での話し合い〉	10
ポイント5 まとめ・振り返り 新たな学び	12
2 主体的な学習を支える基盤づくり	
○ 学級・学習集団づくり ～認め合い・励まし合い・磨き合い～	14
○ ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について	16
3 日々の授業づくりを支える視点	
○ 連続性のある幼小中の接続となるために ～幼児教育の視点から～	18
○ 子どもたちの夢をかなえる中・高連携の在り方 ～高等学校教育の視点から～	20
○ すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～特別支援教育の視点から～	22
4 明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進	24
＜参考文献・引用文献＞	

夢をかなえる県北の教育

(平成31年度版)

教師として大切にしたいこと
**省察，自己研鑽
そして創造へ**

第6次福島県総合教育計画
基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、
心豊かなたくましい人づくり
主要施策 頑張る学校応援プラン

目標達成のために努力し工夫できる子ども

確かな学力

- 自ら課題を見付け 主体的に解決する子ども**
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり
 - ・ 「授業スタンダード」に基づく授業づくり
 - ・ 個に応じたきめ細かな指導の充実
 - 主体的な学習を支える基盤づくり
 - ・ 「家庭学習スタンダード」の活用
 - ・ 「学び方」「学習規律/習慣」の確立
 - ・ 子どもの主体性を生かした読書活動の推進
 - 組織的な学力向上策の推進
 - ・ 学力向上グランドデザインの改善と推進
 - ・ 学力調査等の結果を受けた、機能的なPDCAサイクルの構築
 - 教師の指導力向上のための体制づくり
 - ・ 目指す子どもの姿に基づく校内研修の充実
 - ・ 「互見授業」による教員の学び合いの推進

豊かなこころ

- ひとと関わり心を通わせながら よりよく生活する子ども**
- 心に響く道徳教育の推進
 - ・ 指導内容の重点化と指導計画の改善
 - ・ 「特別の教科 道徳」の時間の量的確保、質的転換
 - ・ 保護者や地域と連携した道徳教育の推進
 - 多様な体験活動・交流活動の充実
 - ・ 学校や子どもの実態、発達の段階等に応じた体験活動、交流活動の充実
 - ・ 望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実
 - 児童生徒理解に基づく生徒指導の充実
 - ・ 不登校の未然防止・早期発見等のための組織的な取組
 - ・ 「いじめ見逃しゼロ」に向けた組織的な取組
 - ・ 教育相談の充実とSC、SSW等との効果的な連携
 - ・ 情報モラルに関する指導の充実

健やかな体

- 進んで運動し 体力の向上と健康づくりに励む子ども**
- 進んで運動に取り組む態度の育成
 - ・ 運動の質の維持・向上を図り、運動の楽しさや喜びを実感させる工夫
 - ・ 子ども一人一人の運動量が十分に確保された授業の工夫
 - 体力向上のための組織的な取組
 - ・ 子どもが主体的に体力向上に取り組む体力向上推進計画の改善
 - ・ 業間活動や部活動等の体育的活動の充実
 - 健康で安全な生活の実践につながる指導の充実
 - ・ 身近な問題を取り入れた保健・安全指導の工夫
 - ・ 望ましい食習慣を育成するための食育の推進
 - ・ 自ら考え行動できる放射線・防災教育の推進

学級・学習集団づくり

「認め合い・励まし合い・磨き合い」

互いのよさや成長を認め合い、違いを理解し合える学級・学習集団

目標に向かって協力しながら、粘り強く取り組む学級・学習集団

互いに切磋琢磨し、向上心をもつてともに励む学級・学習集団

幼児教育の充実

- 発達の時期にふさわしい指導計画の作成
 - ・ 長期的・短期的に見通しをもった指導計画の作成
 - ・ 各年齢の目指す子どもの姿の設定
 - ・ 子どもの意識や興味の連続性のある活動の設定

- 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開
 - ・ 多様な体験ができる教材の工夫
 - ・ 試行錯誤や考える過程の重視
 - ・ 人との関わりが深まる活動の充実

- よさや可能性に目を向けた評価の工夫・活用
 - ・ 幼児理解に基づく子どもの実態把握
 - ・ 見取りに基づく情報交換や意見交換
 - ・ 小学校教育への円滑な接続

特別支援教育の充実

- 全教職員による校（園）内支援体制の充実
 - ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした実効的な支援体制づくり
 - ・ 校内研修の活性化
 - ・ ユニバーサルデザインの視点を生かした環境設定・指導の工夫
 - ・ 交流及び共同学習の推進

- 地域におけるインクルーシブ教育システムの推進
 - ・ 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用
 - ・ 進学時の引き継ぎ体制の充実
 - ・ 本人、保護者との合意形成に基づく合理的配慮の提供
 - ・ 関係機関との連携、地域支援センター（特別支援学校に設置）の活用

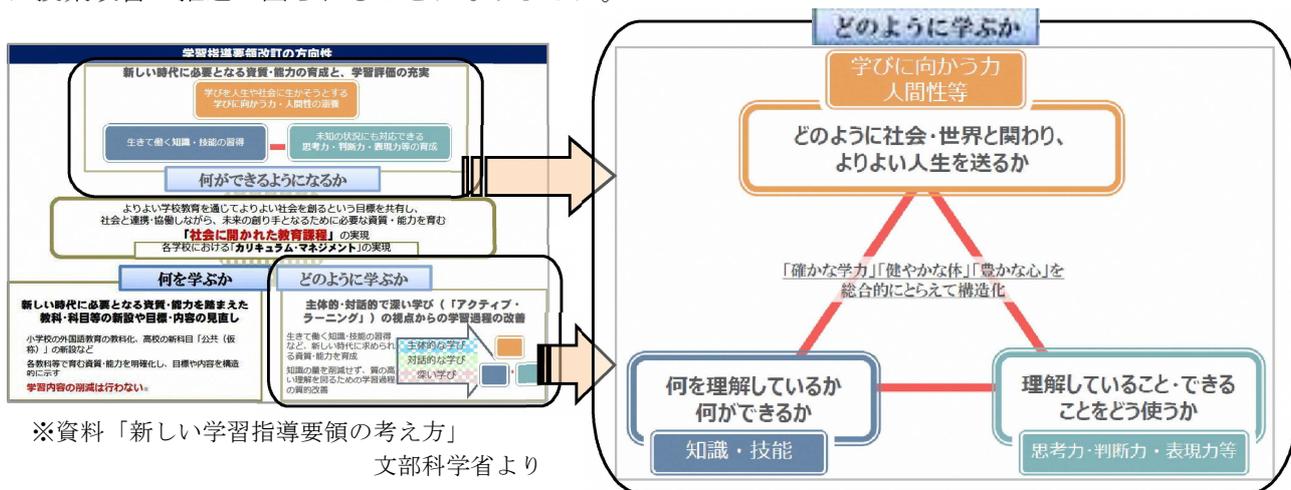
家庭や地域社会、関係機関との連携

- ・ 学校と家庭との連携を強化し家庭の教育力向上を図るための、PTA活動の充実
- ・ 地域全体で子どもたちを教育てるための、社会教育関係事業（地域学校協働活動事業等）を活用した活動の推進
- ・ 子どもの主体的な学びを促すための、関係機関の役割の理解と地域人材、NPO、企業、公民館、公共図書館等の施設を活用した活動の推進
- ・ 学校課題の解決を図るための、関係機関との連携を促すコーディネート力の向上

主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて

平成29年3月、新しい学習指導要領が告示され、小学校では平成32年度から、中学校では33年度から全面実施されることになりました。この学習指導要領では、授業の創意工夫や教材等の改善を引き出ししていくことができるよう、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱でまとめられています。

子どもたちがこれからの時代に必要とされる資質・能力を身に付けて深く理解し、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため、従来「何を教えるか」が重視されていた学習指導が、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点で再整理されました。そして、学習の質を一層高めるための取組を活性化させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が図られることになりました。



※資料「新しい学習指導要領の考え方」
文部科学省より

「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るためには、以下の3つの視点から授業改善を進めることが必要です。

- (1) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているかという視点。
- (2) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているかという視点。
- (3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

※学習指導要領解説 総則編 第3章 教育課程の編成及び実施 第3節 教育課程の実施と学習評価

このことは、小・中学校においてこれまでと異なる指導方法を導入しなければならないということではなく、現在すでに行われている日々の授業を、「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫の必要性を示しています。

こうしたねらいを踏まえ、福島県教育委員会では「ふくしまの『授業スタンダード』」及び「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を中心とした「学びのスタンダード」を策定しました。

各小・中学校においては、すでに『授業スタンダード』を活かした授業改善が推進されているところですが、県北教育事務所では昨年度、授業改善の視点をより明確化・具体化していくために、『授業スタンダード』に基づき授業づくりの視点を5つに整理しました。そして、授業の在り方や授業における支援の仕方などについて具体的に示すことができるよう【参考資料】主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて」を作成しました。

さらに、平成30年度の要請訪問を振り返り、部分的な見直しを図りながら「平成31年度版」として改訂しました。日々の授業の準備や実践、校内研修の機会などの授業づくりや、家庭学習の充実に向けた取組のための資料として活用していただければと思います。

『授業スタンダード』に基づく授業づくりの5つのポイント

ポイント1について 単元をつくる・授業をつくる



ポイント1

『授業スタンダード』のP2に掲載されている「授業前に」の部分にある「単元をつくる」「本時の授業をつくる」について、本資料では授業づくりの**ポイント1**「単元をつくる・授業をつくる」としてまとめました。
また、学習の基盤づくりについて『授業スタンダード』のP3に掲載の「授業の基盤は」を参考に作成しました。

『授業スタンダード』の見開きP3～P6と対応させ、授業づくりのポイント2、3、4、5としてまとめました。
授業の在り方や支援の仕方のポイントを具体的に示してあります。
日々の授業づくりや校内研修の資料として活用していただければと思います。



ポイント2～5について



ポイント2

ポイント3

ポイント4

ポイント5

ポイント2は授業の入口である、**教材との出会い・学習課題の把握**についてまとめました。子どもの「主体的な学び」の実現を目指し、子どもの問いや願いが学習課題に生かされるように工夫していくことについて述べました。

ポイント3は**解決の見通し**をもって、**自力解決**に向かう場面について留意すべきことをまとめました。全ての子どもに課題解決に向けた見通しをもたせるための工夫や、その後の授業展開に生かすために効果的な見取りの方法などについて述べました。

ポイント4は「対話的な学び」を実現するような、協働的な学習の**教師のコーディネート**についてまとめました。子どもの考えをつなぎ、新たな考えをつくりあげることや、全体の場で考えを練り上げ学級全体の学びとして共有していくための手立てなどについて述べました。

ポイント5は学習内容の確かな定着と学びの広がりが実現できるように、一人一人が**本時の振り返り**を行い、「何を学習したか」を明確にし、子どもの言葉を大切に**ねらいやめあてと整合性のあるまとめ**をすることについて述べました。さらに、**適用の場**の留意点についてふれるとともに、**次の学びへつなげるための視点**についてまとめました。

1 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業づくり

ポイント1 単元をつくる・授業をつくる

「明日の授業をどうしよう」とばかり心配していませんか？そのような心配をする前に、まず単元づくりを見直してみたいはかがでしょうか。



◇ 単元の目標を達成する指導計画を立てるために

目標の把握

教材の価値の把握

教材の価値を見いだす！

- 教材に内在する、単元で求める資質・能力を育成するための価値を見いだしましょう。
- **教科書**の構成や掲載されている資料、数値などを本文と関係付けて読み込みましょう。
- 異校種の教科書も参考にして、**学年間の系統性**や**単元間の関連性**等を把握しましょう。

単元の目標を明確に！

- 教科等の特質に応じた「見方・考え方」、学習内容、**育てたい資質・能力**を明確にとらえましょう。

この単元で身に付ける

- ☆「知識・技能」は？
- ☆「思考力・判断力・表現力」は？
- ☆「学びに向かう力・人間性等」は？

- 3つの資質・能力を身に付けた具体的な子どもの姿を目標としましょう。

子どもの実態把握

目的をもった実態把握を！

- **授業風景**を思い描き、その実現につながる実態把握をしましょう。
- **各種調査**で学年、学級の状況や子どもたちの特性等をとらえましょう。
- **レディネステスト**や**アンケート**等で、単元に関わる学習状況（つまりきにも目を向けて）をとらえましょう。

単元の指導計画・評価計画

- 単元の終わりの子どもの姿を3つの視点で描きましょう。
 - ・第一の視点「何がわかり、何ができるようになってほしいのか」
 - ・第二の視点「どのようなことを考え、判断し、どのように表現してほしいのか」
 - ・第三の視点「どのようなことに新たな学びを見いだそうとしてほしいのか」
- 単元全体を見通した計画を立てましょう。
 - ・単元のねらいと「教材」、「活動・内容」、「子どもの実態」とのつながりを明確にする。
 - ・実態に応じて単元や領域に軽重をつけて、単元の重点化を図る。
- 目標達成のための言語活動を設定しましょう。
 - ・目指す子どもの姿にふさわしい言語活動を選択する。
 - ・言語活動を課題解決・課題追究の過程に位置付ける。
 - ・思考や判断を促す発問や指示を具体化する。

ゴールからの構想を

「何を指導するか」ではなく、「どのようなことができるようになるか」を授業構想のスタートとしましょう。

◇ 本時の授業をつくるために

- 授業の終末の子どもの姿を具体的にイメージしましょう。
 - ・「何がわかり、何ができるようになってほしいのか」
 - ・前時、次時との関係を考え、本時で身に付けることを精選し、焦点化する。
- 目的、方法を明確にして指導上の留意点を考えましょう。
 - ・目的を明確にするために…「～のために」を言えるように。
例えば：「自分の考えとは異なる考えにふれさせるために」
 - ・方法を明確にするために…「～を通して」「～することで」を言えるように。
- どのような場面や方法で評価するのか、次の指導に生きる評価を計画しましょう。
 - ・目標、指導、評価、まとめの整合性が図られているか。
 - ・授業時間内に手立てを講じることができるタイミングか。
 - ・その場で確実に子どもの学習成果をとらえられる方法か。

ポイント 2

教材との出会い・学習課題の把握

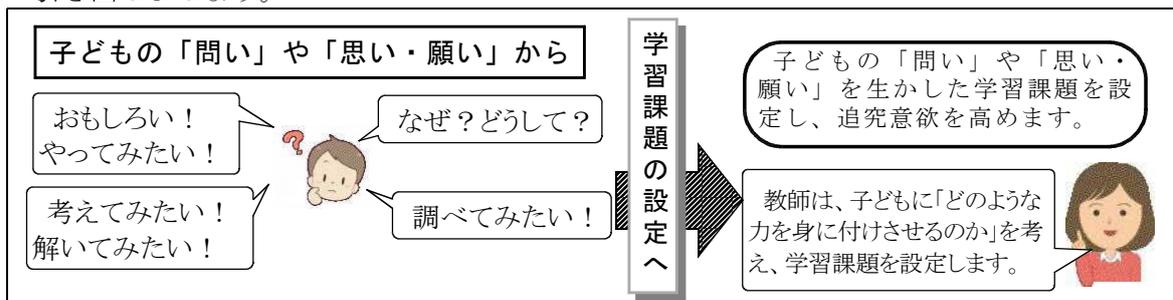
「今日のめあては〇〇です。わかりましたか？」
このように、教師の一方的な課題提示になっていませんか？

子どもとの対話を通し、「教師の学ばせたいこと」が「子どもの学びたいこと」となるよう、擦り合わせを意識して学習課題を設定することが大切です！



◇ 教材との出会い～「問い」や「思い・願い」を引き出す～

教材との出会わせ方を工夫し、子どもの興味・関心を高め、「問い」や「思い・願い」を引き出しましょう。

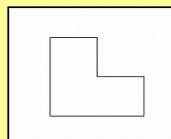


○ 具体物を提示する。

- 資料を少しずつ見せる。一部を隠して見せる。
- 複数の資料を比較したり、分類したりして特徴を見付けさせる。
- 社会や日常生活と関連があるものを提示して具体的なイメージをもたせる。 など

○ 既習事項を振り返る。

- 既習から未習へ移ることでギャップを感じさせる。「できる→できる→あれ？」
- 前時までのノートや掲示物等により振り返らせる。 など



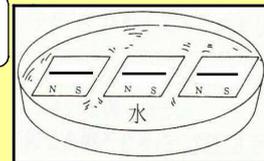
長方形の面積は「たて×よこ」だけど、この図形はどう求めるの？



○ 実演を取り入れる。

- 教師による実験などの実演・演示を行い、興味・関心をもたせる。
- 子ども自身が試してみる活動を取り入れ、主体的に取り組ませる。 など

先生！針が全部同じ向きを向いたよ。どうして？



○ 子どもとの対話を大切にする。

- 子どもとの対話から疑問や矛盾、葛藤等を引き出す。 など

学習課題の設定につなげる教師の発問の例

- みんなが調べたいことをまとめると、どうなりますか？
- ということは、今日は何を考える必要がありますか？
- みんなの疑問を整理すると□□となりますが、どうですか？
- Aさんの疑問、いいですね。それをみんなの課題にしましょうか？ など



◇ 学習課題の把握～「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にする～

「～について考えよう」の課題をもう一度見直してみましよう。「なぜ～」「どのように～」
「～は何か」など、子どもの問いの解決を図り、何を学習するのか、何ができればよいかを示唆する課題を、子どもの言葉を基に設定することが大切です。

教師による学習課題の設定だったとしても…

子どもから「問い」を引き出し、学習課題につなげるのが難しい場合もあります。また、学習の内容においては「～しよう」という教師による課題の設定もあります。

このような場合でも、発問を工夫することで、**学習課題を学習の主体者である子ども自身のものとして意識させる**ことが大切です。

前の時間に課題として残っていたことを思い出してみましよう。

では、どんなことに気を付けて学習するかを考えてみましよう。

学級として〇〇というめあてに取り組みたいのですが、どのように学習していけばいいでしょうか。

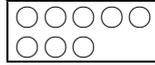


その学習課題、ちょっとした工夫で変わります！

◇ 子どもから問いを引き出し、解決の必然性・必要感から設定した課題

< 算数科「たしざん」 >

問題 たまごは あわせて なんこですか。



本時の目標が、「4 + 8 の計算の仕方を考えることを通して、被加数を分解して計算する方法について理解する」であるとき、下の2つの学習課題のうち、子どもの学習意欲を喚起し、しかも本時の目標に直結する学習活動が予想されるのはどちらでしょうか。

- A 「4 + 8 の計算のしかたを考えよう。」
 B 「どちらに10のまとまりをつくらうかな。」

どちらを10にしようかな。



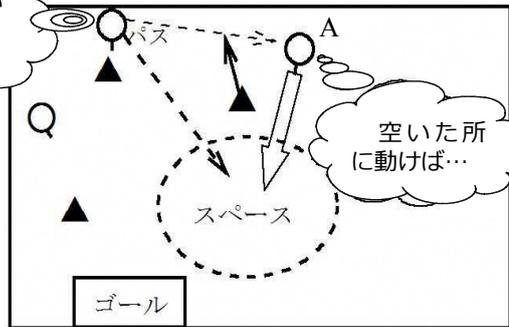
算数においてBのような学習課題を作るには、教科書のキャラクターのつぶやきが参考になります。

Aは、どのような四則演算でもよく見られる学習課題です。しかし、本時では、Bを問うことによって**既習と異なる方法があること**に気付かせることができ、ねらいに直結する学習活動が期待できます。

< 体育科「ゴール型ゲーム」 >

- T 前の時間のパスはどうだった？
 C パスをするのと相手にとられた。
 C パスがつながらなくて、ゲームにならなかった。
 T そうだね。パスがつながらなくて悩んでいたね。
 T パスをする側、もらう側はどんな工夫をすればいいのかな？

Aさん、空いた所に動いてくれないかな…



そこで、学習課題を「うまくパスがつながるようにするには、どのように動けばよいだろうか」と設定します。

例えば、「パスの仕方を工夫してゲームをしよう。」と、教師が一方的に提示するよりも、本時の目標「空いた場所にすばやく動いてパスをつなげる」ことについて主体的に思考させ、運動させることができます。

技能を中心とした教科であっても、子どもとの対話を通して、子どもの問いを引き出し、解決意欲を高める課題を設定することができます。

< 家庭科「エプロンの製作」 >

本時の目標が「形や機能などにこだわりながら、自分が作りたいエプロンを考える」ことであるとき、身の回りでは使われているエプロンに関心をもち、自分の生活に役立つエプロンを考えて、「作ってみたい！」という製作意欲を高めることが大切です。

例えば、学習課題を「自分だけのこだわりエプロンをデザインしよう」と設定します。

このような場合、家庭学習として家族やお店の方に「使っているエプロンの便利なところ」についてインタビューをしてきます。エプロンの「色や形」、「つくりや機能」についての情報を持ち寄り、対話を通して作りたいもののイメージをもたせます。

お父さんのエプロンは、「汚れが目立たない色」だった。「大きいエプロンだと服が汚れない」って言ってたよ。ぼくもそうしよう。



みなさんは、どんな「こだわりエプロン」を作りたいですか？



小物などが入る大きさの「何でもポケット」が欲しい。大事な物が落ちないようにボタンも付けてみたい。



お母さんに聞いたら、「エプロンの端は三つ折りして縫うと、ほどけないので丈夫だよ」って教えてくれたよ。私のエプロンもそうしたい。

ポイント3

追究・解決

《計画・方向付け・見直し》 《個での追究・解決》



子どもたちが自力解決の場面で戸惑っている姿はありませんか？

「授業におけるゴール」をはっきりと意識させ、「そこにたどり着くためにはどのようなことをするのか」という見通しをもたせることが大切です。

◇ 課題解決の見通しをもたせるためには？

○ 「結果の見通し」をもたせる。

- * 「授業におけるゴール」をはっきりと意識させましょう。
 - ・ 答えを予想する。 ・ 仮説を立てる。 ・ 作品の完成図をイメージする。
 - ・ 何について考えていくのか分かる。 ・ 何をどのようにするのか分かる。 など

○ 「方法の見通し」をもたせる。

- * 子どもの状況によって、何も与えずに考えさせたり、既習事項や経験を思い出させたり、直接ヒントを与えたりするなど、対応を考えましょう。
 - ・ これまでの学習で使えることを想起する。 ・ 調べる視点をとらえる。
 - ・ 学習の道筋（順序）を考える。 など

○ 見通しをもつことができているか見取る。

- * すべての子どもが見通しをもっているか見取る場面を設定しましょう。
 - ・ 一人一人の発言に着目する。
 - ・ ノートの記述内容から見取る。
 - ・ ペアでめあてを確認させる。 ・ ネームカードで解決方法を選択させる。 など



課題を設定した後、目的や観点をもたずに机間指導をしていませんか？

子どもの思考を的確に見取ることが大切です。指示した内容や活動が適切であるか判断するとともに、どうコーディネートに生かすか考えましょう。



◇ 子どもの思考を見取るためには？

机間指導

- ・ 発問の理解、反応、全体の傾向を把握する。
- ・ ねらい達成につながる思考となっているか把握する。
- ・ 個々のつまづきがどこにあるかを把握する。

座席表 等の活用

予想される反応を前もって分類しておき、
意図的指名につなげることもできます。

ノート等

- ・ 自分の考えを書いた部分から子どもの思考過程を見取り、授業展開に生かす。
- ・ よい点を称賛したり、励ましのコメントを入れたりしながら意欲を高める。
- ・ 授業後に自分の指導を振り返ったり、次時の指導に生かしたりする。

子どものつぶやきや発言、 教師とのやりとり等から

- ・ つぶやきの中のキーワード
- ・ ペアやグループ学習での発言
- ・ 友達に聞いていたり、教えていたりする様子
- ・ 教師の問いかけに対する反応 等





子どもに自分の意見や考えをもたせずに話し合い活動に入っていないませんか？

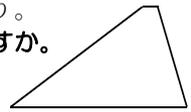
子どもが自分の考えをもち、課題を追究・解決する時間を確保しましょう。その際、子どもの思考を深める発問を工夫することが大切です。

◇ 主体的な自力解決を促す発問とは？

○ **考えを揺さぶる。**
これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。
「～だったよね。でも、～なのは どうしてだろう。」

子どもたちが、「見方・考え方」を働かせるように、発問を吟味しましょう。

○ **葛藤を生む。**
これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。
「これは、三角形ですか。四角形ですか。」



○ **多面的に見させる。**
新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。
「もし、～だったらどうなるだろうか。」

○ **矛盾・対立を生む。**
考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。
「みんなは同じって言ったけど、～というところは本当に同じかな。」

机間指導における見取りと支援

☆ 三つの段階を意識して、机間指導を行いましょ。

段階1 概観する …… 子どもがねらいに沿った活動を行っているか

❯ **できていない** 手立ての例 { ・「めあて（問題）を確認しましょう。」
・「どの方法で考えますか。」
・ワークシート、資料、具体物等の活用
※ 多くの子どもに誤解等が見られる場合は、一度全体を注目させて、発問や指示を改めます。
※ 予定している自力解決の時間を大幅に変更する必要があるかどうか、この段階で見極めます。

❯ **できている（できた）**

段階2 助言する

…「気付き」「関連付け」などで思考を深める

- 手立ての例
・「これはどういう意味かな。」
・「どうしてこう考えたの。」
・「絵や図をかいて整理してみよう。」
・考えるための技法を提示する。
(分類 比較 関連付け など)



- 子どもの目の高さで
- 認め励ましながら(朱書き、丸)
- 個別指導に徹しすぎない

段階3 内容を見る

… 話し合いにおけるコーディネートに生かすために

- 全体の話合いで取り上げたい考えを決める。
- 意図的指名の順番を構想する。

※ 事前に予想される考え方を想定・分類し、それらを暗号化したり色別にしたたりして、座席表などに記録することが有効です。



- ☆ T・Tで行う授業では、教師同士の事前の打合せをしっかりと行いましょう。(見取りの観点、指導に入る順番など)
- ☆ 個別の自力解決の時間であることを踏まえ、机間指導を行いながら、全体への指導をしすぎないようにしましょう。

ポイント 4

追究・解決

《ペアやグループ・学級全体での話し合い》

話し合いを授業に取り入れること自体が目的になっていませんか？

まず、何のために、何を意図してペアやグループ・学級全体での話し合いを取り入れるのか、その目的を明確にすることが大切です！！



◇ 話し合いの目的を明確にするには？

- 話し合いで「期待される子どもの姿」を明確にする
- ねらいを明確にして話し合いを授業に位置付ける

- (確 信) 「僕も同じ考えだ。これでいいんだよね。」
- (共 感) 「そうそう、私もそう思うんだよね。」
- (吟 味) 「あれ、なにか違うね。なぜだろう？」
- (再構築) 「ということは、こういうことかな？」
- (推 論) 「もしかしたら、こうかもしれないよ。」
- (創 意) 「だったら、こうしてみたらどうかな？」

仲間と考えを共有したり、吟味したりすることを通して、子どもたち一人一人の中に対話が生まれ、新たな考えが作り出される。

炭酸飲料から発生する気体は二酸化炭素かな？



気体検知管を使えばわかるね。



私は二酸化炭素だと思うけど、どうすれば確かめられるかな？

気体検知管以外では調べられませんか？今までの実験を思い出してみてもいいかな？



そうだ、石灰水も使える！



＜ねらい＞

- ・多様な考えを整理する
- ・多面的な思考を促す
- ・多様な解釈を促す
- ・多くの発想を促す

＜ねらい＞

- ・学習内容の習熟を図る
- ・疑問を解決する
- ・考えを深める
- ・学習を振り返る

＜ねらい＞

- ・合意形成を図る
- ・多様な考えを一つにまとめる



◇ 子どもの考えが交流する充実した話し合いにするには？

- 教師のコーディネートにより、子どもの考えをつなぎ、広め、深める

考えをつなぐ言葉かけ	教師のコーディネート例	広げ・深める「つなぎ言葉」
【教師の言葉かけ】 ・「～さんのよいところはどこですか」 ・「～さんはどうして、このような考えが浮かんだのだと思いますか」 ・「～さんの考えはどういうことですか」 ・「～さんの考えの続きが分かりますか」 ・「～さんの気持ちが分かりますか」 ・「ヒントが言えますか」 ・「～さんの説明をもう一度言えますか」	【ねらい】 (発 見) (推 測) (要 約) (予 想) (共 感) (補 助) (再 生)	・「…を基にすると」 ・「だとしたら…」 ・「たとえば…」 ・「つまり…」

その場所でいいですか？

- ・子どもの座席
- ・先生の立ち位置

子どものつばやきや表情の変化をしっかりとらえて、言葉かけをしましょう。

- コーディネートの充実を図るために（コーディネートの流れ）

把握（見取り）

授業中のあらゆる場面で見取り。教師の話や聞くときの姿だけでなく、他の子どもの話を聞くときの姿なども見逃さない。

解釈

見取った子どもの姿が生じた原因を考える。授業の進み方、理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像する。

選択

再度説明するのか、子どもに説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。手立てを数多くもつ必要がある。

実行

具体的にどのような言葉で発問・指示するか、誰をどの順に指名するか等を考慮しながら次の指導を実行する。



※ 福島県教育センター HP「授業中における『コーディネート』の在り方」参照

思考の可視化を図る板書やツールの効果的な活用例

思考が働く発表・話し合いになっていますか？



水力や太陽光、生物体の有機物などをエネルギー源とした、再生可能エネルギー資源の利用が進められています。例えばバイオマス発電は、... アルコールを燃焼させて発電します。

考えが共有できるように、視覚で捉えやすい説明を行うなどの工夫が必要です。

模造紙やホワイトボードに書いたことを、そのまま読むだけの発表になっていませんか？

ホワイトボードの文字が小さくて読みにくい。



いろいろな用語が出てきてわかりにくい。ポイントがわかるように説明してほしいな。



<黒板・ホワイトボードの活用例>

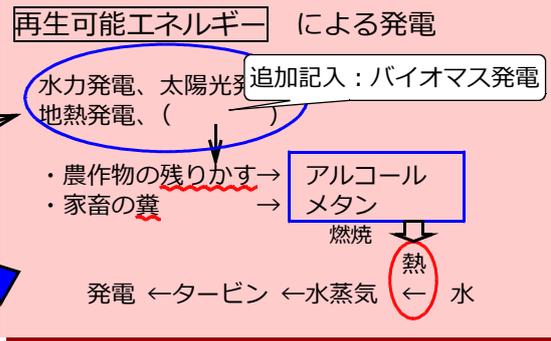
- 話し合いの視点や論点を明示する。
 - ・どのような視点から考えるのか？
 - ・どのようなテーマで話し合うのか？
 - ・何の目的で話し合うのか？
- 思考を刺激し、考えを深めるよう板書を工夫する。
 - ・書く位置 ・文字の大小、間隔 ・心情曲線 ・空白や色チョーク（色ペン）の活用 等
- 聞き手に内容が伝わるよう、発表の仕方を工夫する。
 - ・長い文章を避け、キーワード程度にとどめるなど視覚で捉えやすくする。
 - ・項目やキーワード等を線でつなぎ、関連が分かるようにする。
 - ・キーワードやアンダーライン等を書き加えながら強調して説明するなど、ポイントを捉えやすくする。



話し合いの状況を見取り、意図的な順番で発表させていますか？

<ホワイトボードを使ったまとめ方の例>

これらが「再生可能エネルギー資源」です。例えばバイオマス発電は、... 仕組みは火力発電と共通するところがありますが、何度でも資源が再生できることがポイントです。



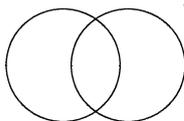
<ツール等の活用例>

- ミニホワイトボードを使って話し合い、発言や考えを類型化する。
 - ・ミニホワイトボードにメモ的に書いたり消したりしながら話し合う。
 - ※発言や考えを書いた付箋等を活用すると、ミニホワイトボードに貼る位置を変えることができるため、整理しやすい。
- 思考ツールを活用する。
 - ・各種チャート等を使って視覚的に示す。

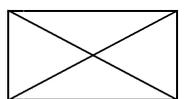
授業のねらい等に応じ、必要な場面で効果的に使いましょう。



分類する

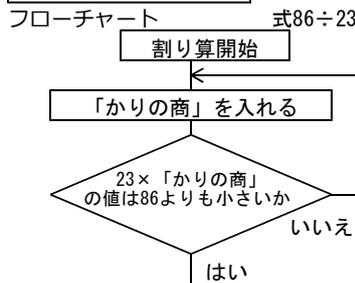


ベン図
2つの事柄を比較し、共通点と相違点を見いだす



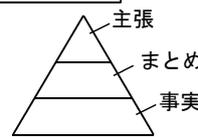
Xチャート
4つの視点で分類する

プロセスを可視化する



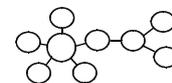
プログラミング的に手順を考える

構造化する



ピラミッドチャート
多くの事実から要点をまとめ、さらに最も主張したいことを導く

関係付ける



イメージマップ(ウェビング図)
テーマとなる言葉から発想を広げる

ポイント5 まとめ・振り返り 新たな学び

学習内容の確実な定着や主体的な学習態度の育成には、振り返る活動が大切です。確実に実施するためにはどうしたらよいでしょうか。

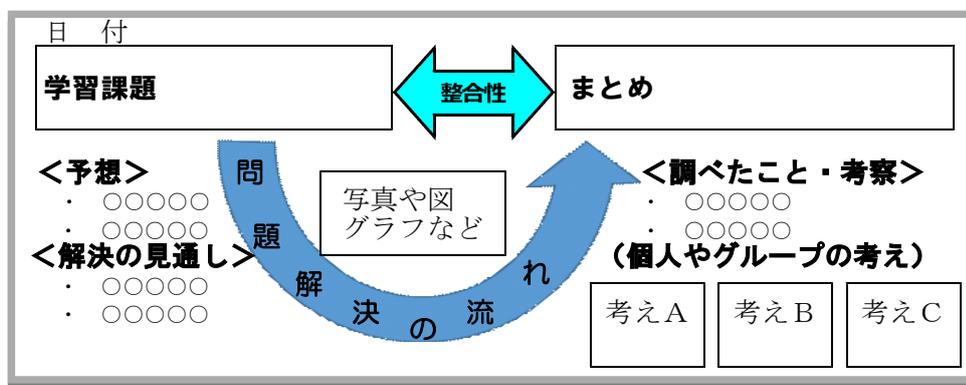
授業の時間は限られています。授業前にまとめに入る時刻を決めておきましょう。そうすることで、まとめのための十分な時間の確保につながります。



◇「何を学習したか」をまとめるために

- 学習課題・めあてとの整合性を図ったまとめを！
本時のまとめは、課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。
- 問題解決の流れが分かる構造的な板書を！
学習課題、予想、調べたり考えたりしたこと、結果、まとめまでの一連の学習を子どもの思考の流れに沿って構造化することで、一目で授業全体を振り返ることができます。

学習の流れが分かる構造的な板書例



この板書例以外にも、上下に分けて対比する、左右に分けて対比するなど、学習内容により効果的な板書を工夫してみましょう。



- 学習内容の再生の場やねらいに合った適用の場の設定を！

再生する場の設定

学んだ知識や技能を再生する場を設定することで、本時の学びが子ども一人一人のものになっているかを確認できます。学習内容に合わせて、書いたり話したり表現したりする活動を位置付けましょう。

例「キーワードを基に友達に解説しよう」

ねらいに合った適用問題

- 類似問題を解く
→ 一般化を図りたい時などに
- 同じ手順で解く
→ 定着を図りたい時などに
- 誤答を修正させる
→ 確かな理解につなげるために
- 別な手順で解く
→ 深い理解につなげるために

◇「どのように学習してきたか」を振り返らせるために

- 考えの変容が分かるように記録させるノート指導
問題解決的な学習等における一人一人の追究の過程や考え方を重視したノート指導をしましょう。そうすることで、自己の変容や成長を自覚させることにつながります。

【ノート指導の例】

- 板書、追究の過程における自分の考え、参考となる友達の考えに分かりやすい記号を付けるなど、区別して書かせる。
※間違えた部分があっても消さずに残しておくことが大切です。
- 授業の終末に「めあて→学習過程①→学習過程②→まとめ」の順に簡潔にまとめさせる。



◇「学び続ける態度」を育てるために

○ 新たな学びに目を向けさせる

実社会や日常生活に関わるような問題や自己のキャリア形成の方向性と関連付けた問題などを紹介し、主体的に学びを連続させていくようにしましょう。

【働きかけの例】・「今日学んだことは、生活のどんな場面で生かされますか？」

・「〇〇の学習から、新たに疑問に思ったことは何ですか？」 など

○ 授業内容と家庭学習を関連させる → P16～P17「ふくしまの『家庭学習スタンダード』活用について」

授業内容と家庭学習を関連させることにより、本時の学習が一層定着したり次時の学習への見通しがもてたりして学習への意欲が高まります。その日の家庭学習を想定した上で、授業に臨みましょう。例えば、次のような家庭学習が考えられます。

- 一層の定着を図る家庭学習 → 授業内容の一層の定着を図るため、作業的にならないように配慮しながら練習する家庭学習
- 応用・発展的な家庭学習 → 授業の内容を発展させた問題や、新たに気付いた問題を解決し、学んだ知識・技能を活用する家庭学習
- 次の授業のための家庭学習 → 次の授業に必要な既習事項を確認したり関連事項を調べたりしておく家庭学習

子どもの思いを生かしたまとめを！

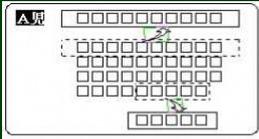
＜小学校2年 算数「ひき算のひっ算」 ※ 39 - 15の計算の場合＞

めあて 2けた-2けたのひき算は、どのように計算すればいいのかな。

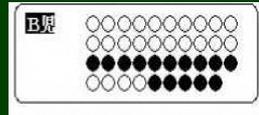
もんだい 39 - 15

まとめ 2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算するとかんたん。

【ブロックで考えたA児】



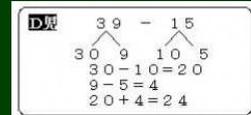
【図をかいて考えたB児】



【お金で考えたC児】



【式で考えたD児】



教師が強引に一つの考えでまとめてしまっていないですか？

教師：Dさんの考えがいつでも簡単にできる方法だね。Dさんのように十の位と一の位に分けて計算するといいですね。

教師：(まとめを板書) 2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算する。

教師：では、練習問題をやりましょう。(答え合わせをして、授業終了)

わたしの考えじゃ、だめなのかな？



適用問題を解くことで友達の考えにふれ、理解が深まるまとめ方の例

授業終了10分前にはまとめ開始！

教師：どの考えも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、みんなが言うようにDさんの考えが使えるそうですね。

いつでもその考えが使えるか、Dさんの考えで「68 - 24」を解いてみましょう。

— ねらいに合った適用問題—
「類似問題を解く」
「別な手順で解く」

まとめに使う言葉は子どもから引き出すようにしたいですね。

C児：なるほど、Dさんの考えのように十の位と一の位に分けて計算するといつでも簡単にできる！

教師：2けた-2けたのひき算は？

全員：位ごとに分けて計算すると簡単。

教師：(まとめを板書) 2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算するとかんたん。



※ポイント5については【(県北版) 学校教育指導の重点】P8～P18の下段も参考にしてください。

2 主体的な学習を支える基盤づくり

学級・学習集団づくり ～認め合い・励まし合い・磨き合い～



子どもたちが互いに磨き合う集団に高めていくには、どうすればよいでしょうか…？

「子どもを認めること」ができているか、もう一度見直してみても。



子どもの自己肯定感については、各種調査の結果等からも、徐々に改善傾向が見られるようになりました。引き続き、教職員一人一人が共通理解を図りながら、たとえ成果が現われていなくても、子どもが努力したり工夫したりしたことを積極的に認め、励ましていくことが、「認め合い・励まし合い・磨き合う学級、学習集団」へとつながっていきます。一人一人の子どもと向き合い、**何を認めてほしいのかを理解する**ことが大切です。

子どもを認めるために…

子どもが何を認めてほしいのだろうか？

結果や成果だけでなく、そこに至るまでのプロセスや努力の様子を教師がしっかりと把握し、「心の成長」を認めていくことが、子どもの「またがんばりたい」という意欲の高まりにつながります。



「子どもを認める」ために普段から気を付けることはありますか？

子どもの行動の背景を知ることが大切です。日ごろの観察や関わりだけでなく、生育歴や家庭の様子、興味・関心、特技や苦手なことなどについて、保護者や各担当者や情報を共有することが、児童生徒理解に有効です。



実際に、どのように認めていけばよいのでしょうか？効果的な方法などありますか？

直接言葉で認める以外に、工夫したことや努力したことについて、作品や生活ノートなどに丁寧にコメントを書くなどの姿勢が大切です。また、成長の様子を保護者や他の教師に伝えたり、学級通信などを活用して発信したりするなど、他の人からも称賛されるように工夫することも、子どもの自己肯定感を高める上で有効です。

「認める」から「認め合い・励まし合い・磨き合い」へ

教師が一人一人の子どもを認めようとすると…

教室に**安心感**が生まれます。

安心感が生まれた教室では…

自己表現がしやすくなります。

自己表現が計画的・継続的に行われると…

互いのよさや違いがわかります。

互いのよさや違いを理解すると…

集団活動の意義に気付きます。



「認め合い、励まし合い、磨き合う活動」が**活発**になります。

教師と子どもの信頼関係と自己肯定感の高まりを基盤として、子どもたちが主体となって「認め合い・励まし合い・磨き合う活動」ができるように、教師が場や機会を準備する必要があります。教師が適切に関わり、必要なルールづくりなどの支援をしていくことが学級・学習集団づくりには不可欠です。

「認め合い・励まし合い・磨き合う活動」の実現に向けて

子ども一人一人の努力や工夫を積極的に認める関わりを！



Aさんは、昨日の日直の活動をしっかりやっていたですね。みんなが帰った後、机をきれいに並べてくれたから、今日の朝、教室に入ったとき、とても気分がよかったですよ。

Bさんは、給食の準備を手早くやれるよう、いつも班のみんなに声をかけてくれます。準備が早いと、食べる時間にも余裕が生まれて、クラス全員が和やかな気持ちになりますね。

Cさんは、授業中いつも発表する人の方を見てしっかりと話を聞いている素晴らしいですね。しっかりと話を聞けるというのは、大切なことですね。

Aさん



いっしょに日直だったDさんに、「どうせやるなら丁寧にやろうね」と声をかけたら、「そうだね」と言ってくれたので、二人で頑張れました。

Bさん



班の他のみんなを急かしているようで、いやな思いをさせているかも、と思っていたけれど、クラスみんなが喜んでくれていたならうれしいです。

Cさん



私が発表したとき、Eさんが私の方を見て話を聞いてくれていたのがうれしかったので、私もそうすることにしました。はじめは恥ずかしかったけど、他のみんなもそうできるといいな、と思います。

子どもたちが自己表現できるような雰囲気醸成を！



来月の「セレクト給食」のメニューですが、3組はどちらにしますか？

そういえば、前回はAさんが食べたいと言ったメニューだったような・・・

それでは、Cさんのアイデアで決めていいですか？

Bさん



Aさん



わたしは麺がいいです。このクラスには麺が好きな人がたくさんいるし。

Cさん



前回の「セレクト給食」で、好きなメニューが選ばれなかった人の意見を優先したらどうかしら？

互いのよさや違いを認め合うことができるような場面づくりを！



「1分間スピーチ」の次のテーマは、何がいいですか？

わたしは、「よいところ」に絞った方がいいと思うけど。よいところをみんなで出し合ったら楽しそうだし。

Cさん



「わたしの見つけた3組のよいところ、改善した方がいいところ」がいいと思います。

Aさん



ぼくは改善するべき点をみんなで出し合う方がいいと思ったけど、Aさんの考え方もその通りだな。じゃあ、「3組のよいところ」にしよう。

Bさん



集団活動の意義を理解できるような話し合い活動を！



修学旅行の、学級選択コースはどうしますか？

外国人なら秋葉原の方がたくさんいると思うよ。そもそも、班ごとに選択して行ってはダメなのかしら？

Cさん



Aさんの言うとおりだね。クラスのみんなで行くことが大切なんだよね。

ぼくは、豊洲市場がいいと思います。新しくなった市場がどんな様子か見てみたいし、外国人もたくさん来ていると聞いたから。

Bさん



みんなで話し合っただけで決めた所に、全員でいっしょに行くことが大切なのでは？一生に一度の修学旅行だし。それぞれの意見のよいところをもう一度出し合ってみようよ。

Aさん



子どもたち一人一人のよさにしっかりと目を向けること。そして、一人一人の思いや願い、考えをしっかりと受け止めることが、集団づくりの基盤ですね。

「自分もよくてみんなもよい」という「合意形成を図る話し合い」の充実が、「認め合い・励まし合い・磨き合う活動」の充実につながりますね。



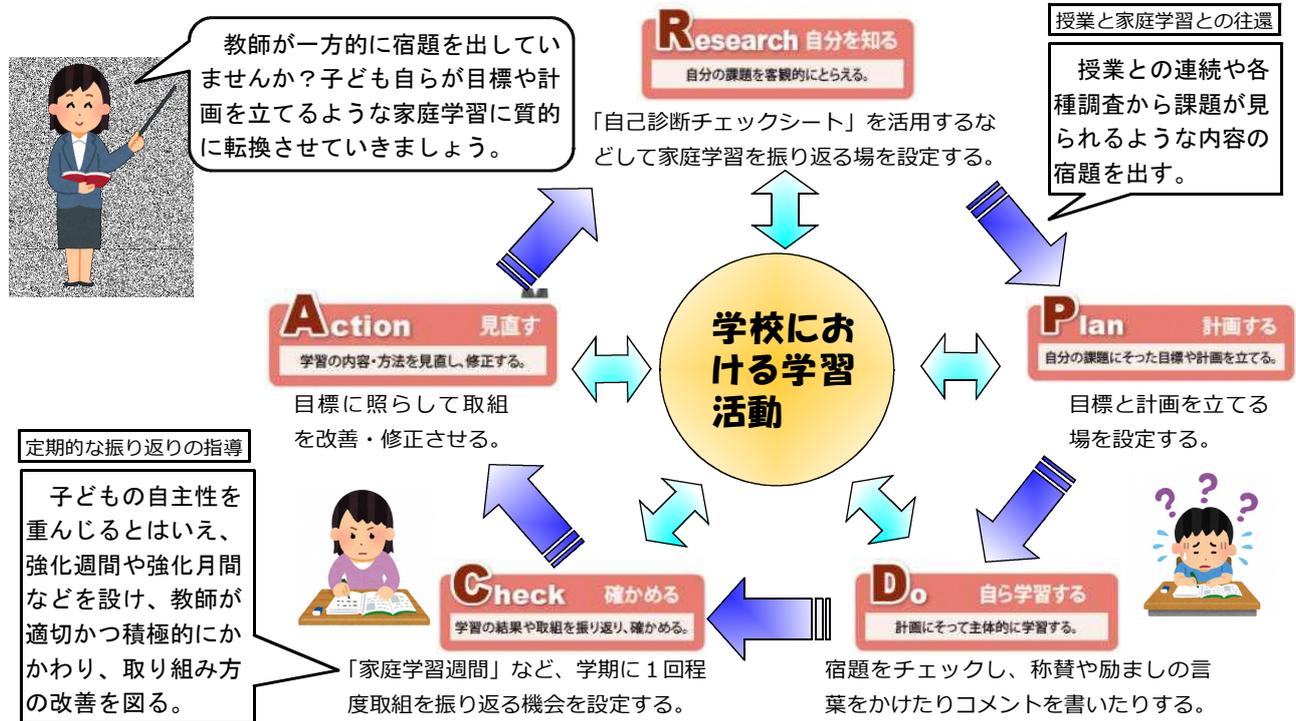
ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用について

私たち大人は、子どもたちに、変化の激しい時代であっても、豊かな人生を切り拓き、よりよい社会の創り手として成長してほしいと願っています。そのような社会の形成者を育てるために、学校における学習はもちろんのこと、家庭での学習を充実させていくことが求められます。ふくしまの「家庭学習スタンダード」を仲立ちにして、3つの資質・能力を地域・家庭と学校が連携・協力しながら育てていきましょう。また、ふくしまの「家庭学習スタンダード」について理解を深めるために、義務教育課ホームページに掲載しているQ&Aを御覧ください。



R-PCDAサイクルを通した「自己マネジメント力」の育成を！

家庭学習に取り組ませるに当たっては、「Research 自分を知る－Plan 計画する－Do 自ら学習する－Check 確かめる－Action 見直す」の5つの段階を設け、子ども自らが主体的に学習や生活を改善していけるようにします。また、子ども自身が、それぞれの段階と学校における学習活動とを結び付けて考えたり、実践したりできるように、指導しましょう。



「こんなふうに家庭学習に取り組んでほしい」という子どもの姿を描きながら、その実現のための取組を全職員で具体化させましょう。そして、保護者との協力関係を築いて共に推進しましょう。

全教員でアイデアを出し合いましょ

アイデア①（学習方法の自立）

・進学を考えると、自分で学習できるようになってほしい。目標だけでなく、課題に取り組む順序の計画も立てさせよう。

アイデア②（計画を立てる時間の確保）

・プランニングシートを書かせる時間が必要だ。日課表を見直して、計画のために短学活を15分間にしよう。

アイデア③（自学力の向上）

・自分で学習課題を見いだせるようになってほしい。自主学习で自己課題解決の日を週末に位置付けよう。

アイデア④（地域素材や人材の活用）

・自己課題の解決のためには、地域の「人、もの、こと」をおおいに活用してほしい。人材リストや施設紹介ファイルを準備しよう。

<保護者への協力要請>

P T A集会や学級、学年懇談会、個別懇談などの機会をとらえ、家庭学習を充実させる3つの視点について話題として、協力を要請しましょう。



視点1 心の支え

- ・コミュニケーションを大切に
- ・安心感を与えられるように

視点2 環境づくり

- ・集中できる環境を
- ・読書の機会を多く
- ・地域行事や体験活動を

視点3 習慣づくり

- ・早寝・早起き・お手伝い
- ・朝ご飯は毎日食べる
- ・テレビやゲームなどのルールを決めて

「家庭学習スタンダード」に基づく学校の4つの取組例

「家庭学習スタンダード」に示している「学校の4つの取組」の例を紹介します。それぞれの学校の実態に応じて、実効性のある実践に結び付けるために参考にしてください。

【別紙】
家庭での学習・生活チェックシート

評価項目(例)	評価					気づいたこと
	5	4	3	2	1	
1 親の一人にまかされても、自分から進んで家庭学習をしている。						
2 子どもとゲーム、スマホなどの機器に夢中になって学習している。						
3 正しい姿勢で机に向かっている。						
4 課題を全部やりとりが、提出日に遅れずに出している。						
5 課題がなくても、毎日学習している。						
平均値	1学期 ()		2学期 ()		3学期 ()	

自己マネジメント力を育成するために、5つの観点「学習習慣」「生活習慣」「学習時間」「学習内容」「学習方法」で子どもの家庭学習状況を捉えましょう。各観点につながる取組のアイデアを先生方でも出し合い、実践しましょう。チェック機能を働かせるために、義務教育課ホームページから、「家庭での学習・生活チェックシート」をダウンロードして活用することができます。



取組① 共通理解を図った指導

- 家庭用「家庭学習の手引き」の作成
 - ・家庭で取り組むことを中心にまとめた家庭用の手引きを作成する。
 - ・祖父母にも協力いただける内容とする。
- 9年間の「家庭学習の手引き」の作成
 - ・小・中学校の9年間を見通した手引きを作成する。
- 各教科で量や時期のバランスをとる工夫
 - ・職員室前に「家庭学習予定表」や「宿題ボード」を掲示し、各教科担当者が、日付のところに課題を記入する。
- 家庭への協力を呼びかける工夫
 - ・毎週末に「学年だより」を発行し、家庭学習に関係する子どもの様子を伝えたり、協力依頼をしたりする。

取組② 授業と家庭学習との関連付け

- 家庭学習を活用した授業づくり
 - ・既習と未習の問題を組み合わせた課題に取り組むことで「できる→できる→できない」を事前に体験させ、次時の導入で取り上げる。
- 発展的・連続的に学ばせる工夫
 - ・発展的な学習を促し家庭学習につなぐため、図書館の環境整備をする。
 - ・授業で見いだされた新たな課題を追調査させ、連続した学びにする。
- 小学校専科教員による家庭学習の指導
 - ・専科教員が、深い教材研究に基づき、授業で身に付けた知識や技能を活用できるような宿題を出し、学習の仕方も含めて指導・助言する。

授業の充実

取組③ 内容・方法の指導

- 「家庭学習強化週間」の実施
 - ・「家庭での学習・生活チェックシート」を実施（年3回）し、結果に基づいて個の実態に応じた学習内容・方法、生活時間の使い方等を指導・助言する。
 - ・縦割り班で生活改善に関する話し合いをし、全校集会で改善のポイントを発表する。
- ノート展示による参考例の紹介
 - ・教師のコメントを記入した自主学习ノートを一定期間、廊下に展示する。
- 「学級力」の向上を図る取組
 - ・学級力を自己評価するアンケートを実施し、学級のよさや課題をレーダーチャートで可視化し、話し合う。

取組④ 協力・連携体制の構築

- 中学校区としての共通実践
 - ・中学校区として教員同士が話し合い、「学習の手引き」に共通実践事項を設ける。
 - ・中学校区として公開授業を開催し、「家庭学習の充実」も含めた協議をする。
- 学習に関する教育相談の実施
 - ・生徒指導の教育相談の内容として「学習」に関する悩みを聞く。
 - ・課題解決型の自主学习課題に取り組ませるための助言をする。
- 地域の施設への協力依頼
 - ・自主的な追究活動で利用できそうな施設に「家庭学習の手引き」を配付し、協力を依頼する。

福島県教育委員会では、平成30年度に家庭学習の充実に向けた実践を行っている小・中学校を訪問しました。福島県教育委員会義務教育課HP「ふくしまの『家庭学習スタンダード』を活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集」で取組を紹介しておりますので、こちらも参考にしてください。

3 日々の授業づくりを支える視点

連続性のある幼小中の接続となるために ～幼児教育の視点から～

子どもの資質・能力を育成するためには、幼児教育でどのような取組がなされているのかを知る必要があります。今後の小・中学校での取組を改善するための参考にしてください。

幼稚園等で行っている取組

◇ 学びの連続性を踏まえた保育の改善

- 「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を基に目指す子どもの姿を明確にし、長期的・短期的な指導計画を作成して保育を展開している。
- 保護者の保育参観や保育参加の機会を設け、家庭とのつながりを大切にされた保育をしている。
- 遊びの中にある子どもの「**気づき**」や「**試行錯誤**」を大切に考えている過程を重視した保育をしている。

接続のポイント

学びや人格形成は幼児期から始まっています！

幼小の育ちと学びをつなぐ「**スタートカリキュラム**」による指導を充実させましょう。

◇ 言葉による思いを伝え合う場の設定

- 単なる言葉の指導をするだけでなく、コミュニケーション能力を育てるために、伝え合いの機会をつくっている。
- 様々な体験から感動したり、友達と心が通ったりした喜びを、**自分の言葉**で表せるように働きかけている。
- 友達のよいところを言葉を使って紹介するなど、**互いを認め合う学級づくり**を行っている。

心ゆさぶる体験を言葉にすることで表現力を高めます！

学習の成果を話したり、書いたりする活動を設定して表現力を育てましょう。

◇ 主体的に体を動かす遊びの工夫

- 体を動かす気持ちよさを体験させるために、遊具の工夫や季節に合う**環境づくり**に努めている。
- 「**幼児期運動指針**」を活用して多様な動きを経験できる遊びを設定したり、一日に体を動かす時間が**60分以上確保**できるように指導計画を工夫したりして、十分な運動量の確保に取り組んでいる。

運動量の十分な確保が、健全な発育につながります！

様々な場面で**運動する時間を確保**し、体力向上や肥満解消を図りましょう。

◇ よさや可能性に目を向けた評価の工夫・活用

- 具体的な子どもの姿を基にして**指導を振り返る話し合い**を日常的に行い、子ども一人一人のよさや可能性を見いだして幼児理解に努めている。
- **各年齢の目指す子どもの姿**に照らして、子どもの成長を評価し、次の指導の改善に生かしている。
- 特別な支援を必要とする子どもについて、保護者との合意形成、関係機関との連携を図りながら**個別の教育支援計画、個別の指導計画**を作成している。

一人一人の見取りが教育効果を高めます！

幼稚園等からの**情報を共有**し、児童生徒理解につなげましょう。

幼稚園等の保育、小・中学校の指導の相互理解を！

幼稚園等、小・中学校の先生方が共に集まり、研究授業を通じた情報交換をすることによって、それぞれの指導観や指導法を理解したり、指導の方向性を共通化したりすることができます。

小学校研究授業の事後協議会から



幼稚園教諭

めあてがあることで、何を、どのようにすればよいのかが分かるのですね。園児にも、目標をもたせる工夫をしたいと思います。

指導方法について考え方を共有

めあてとまとめの整合性を図ると、学習内容の確認ができますね。授業の中に、まとめや振り返る時間を確実に設けたいと思います。



中学校教諭



小学校教諭

子ども一人一人に学習の目標をもたせることは、主体的に学ぶことにつながるということ、時間内に学習内容の確認をしたり、適用の機会を設けたりすることは、定着につながるということを話し合いました。これからの指導に生かしていきましょう。

小学校1年生の学びは、ゼロからのスタートではありません。
「スタートカリキュラム」で学びをつなぎましょう。

子どもは幼児期に
たっぷりと学んで
きています。



「スタートカリキュラム」って小学校の生活に慣れさせるためのものですよね？

そのような側面も確かにあります。しかし、次のような考えも
「スタートカリキュラム」を作成・実施する上でとても大切です。

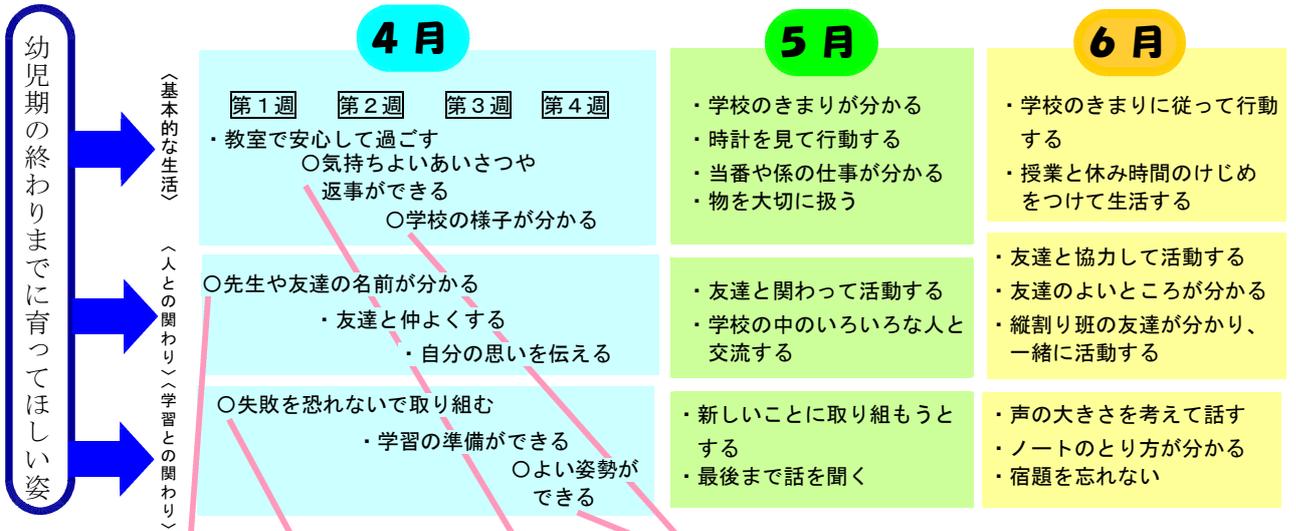
それは、「幼稚園等での遊びや生活を通じた学び(学びの芽生え)」と、「各教科等の学習内容について、授業を通して自分の課題解決に向けて計画的に学んでいく小学校の学び(自覚的な学び)」をつなげるということです。カリキュラム編成の手順と具体例を示してみます。



【カリキュラム編成の手順と具体例】

ステップ1 成長の姿を週や月の単位で明らかにする。

この時期の子どもの成長は、
驚くほど速い!



ステップ2 成長の姿に適合した単元(合科・関連など)を構成して配列する。

生活科を中心とした、合科的・関連的な指導(4月の単元例)

※ゴシックは幼児期に経験している活動

単元名「なかよしいっぱい がっこうだいすき」				【合科:生活3 国語1 音楽1 図画工作1 体育1】	1/3=15分
はじめまして	すきなえいっぱい	うたであいさつ	がっこうたんけん①	えんぴつのもちかた	
じこしょうかいをしよう うた「さんぽ」	すきなえをかいてはっぴょうしよう	「じゃんけんれっしゃ」「ロンドンばし」「きびたんたいそう」	どんなきょうしつがあるのかな	よいしせいで、じぶんのなまえをかこう	
30分 生1/3 音1/3	30分 図1/3 国1/3	30分 音1/3 体1/3	45分 生3/3	15分 国1/3	

ステップ3 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。

- 入学当初は1単位時間を柔軟に扱い、子どもが集中できる時間で楽しく学習に取り組めるように弾力的な時間割を設定する。
- 幼児期に経験した活動を取り入れ、子どもが自信をもって自己発揮できるようにする。
- 特に1年生の4月は、日課表が他学年と異なることが多いため、学校全体で1年生の育ちを見守る姿勢を大切にする。

ステップ4 その他にこんなことも・・・

- ☆ 「生活しやすい環境」「学びやすい環境」「学習のきっかけが生まれる環境」をつくる。
- ☆ 「うた」「手あそび」「ダンス」「工作」「うんどう」「おにごっこ」「行事」など、幼児期にどんな活動を行ってきたかを把握する。
- ☆ 幼稚園等での学びを理解し、就学前の子どもができることを生かして小学校の学習につないでいくことができるように、幼稚園等での子どもの姿をとらえたり、教員同士の情報交換を行ったりする機会を設ける。

子どもたちの夢をかなえる中・高連携の在り方

～高等学校教育の視点から～

中学校から高等学校への接続は、子どもたちが社会に出ることをより強く意識するようになることを踏まえてなされる必要があります。子どもたちが高等学校に入学した後も、生き生きと学んでもらいたいと願うのは、それぞれの教員に共通することです。ここでは、中学校入学から高等学校卒業までの学びが、子どもたちの夢の実現につながるよう、配慮したい点を紹介します。

◇ 高等学校へは、自己マネジメント力と主体性を身に付けて



「家庭学習スタンダード」

自己マネジメント力の育成
(自分の課題をとらえ、
計画を立て、主体的に
学習する、等)

※ 家庭学習の時間や量だけが
重要なものではありません。
(P16～17を参照)

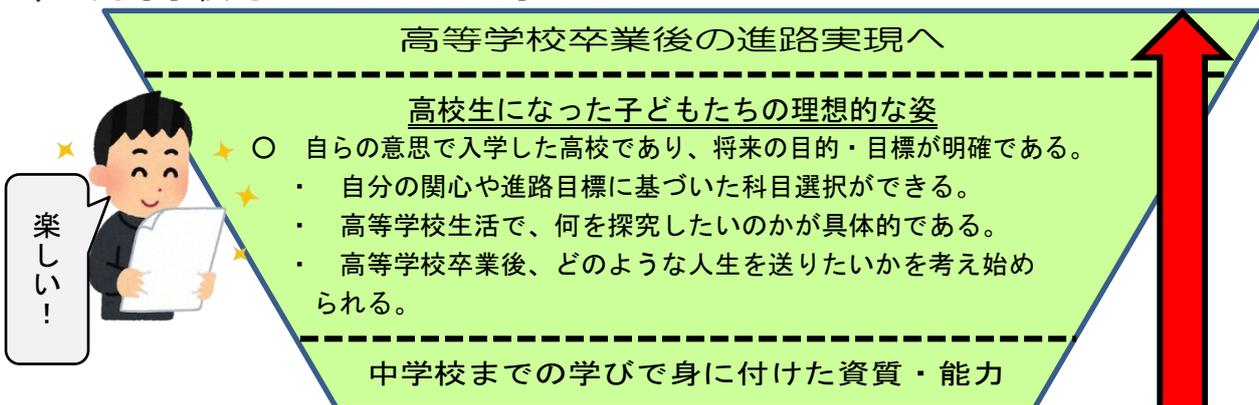
高等学校
進学後も

大切にしたいこと

**主体性のある学びへ
向かうための学習習慣を**

「疑問点は、積極的に先生
に質問する」
「ノートを自分なりに工夫
してとる」
「学校での勉強以外に、た
くさん本を読む」

◇ 高等学校でも、生き生きと学ばせたい



◇ 系統性を意識した学びによる中・高連携

中学校は、3つの校種の間位置します。小学校での学びを基にしながら、高等学校での学びにつなげる視点で生徒の資質・能力を育むことが大切です。学校段階が上がるにしたいが、より多くの事項・要素・要因を知識・技能として身に付け、それらを思考・判断・表現の材料として事象を理解し、とらえるようになります。

例えば、国語や社会など、各校種に共通する教科・科目であれば、中学校・高等学校双方の教師が、互いの指導内容を系統的に理解することで、子どもたちの学力向上に結び付くような授業展開が可能になります。

【例：社会科（歴史分野）】

小学校での学び	中学校での学び	高等学校での学び
〔江戸幕府〕 徳川家康や徳川家光等の人物を中心に、参勤交代や鎖国等の制度が整えられたことを学ぶ。 ↓ (事象理解へ) 武士による政治の安定	〔江戸幕府〕 小学校での学びに加え、農村の役割、琉球やアイヌとの関わり、中世の武家政治との違い等を学び、小学校よりも時間軸・空間軸を踏まえた思考が深まる。 ↓ (事象理解へ) 幕府と藩による支配の確立	〔江戸幕府〕 中学校までの学びに加え、産業技術、学問・文化、国際情勢と日本等を学び、中学校よりも時間軸・空間軸を踏まえた思考が深まる。 ↓ (事象理解へ) 法や制度による支配の確立と維持

◇ キャリア教育と中・高連携

- 中学校でのキャリア教育の充実が、高校生へのキャリア意識・進路意識の向上につながります。

目前の子どもたちが、高等学校を卒業するときの姿をイメージしながら日々の教育活動に当たっていますか？

みんなは、なぜ職場体験を行うのだと思いますか？

お金を稼いで生活することの大切さが分かるからだと思います。

お金のことだけではなく、働くことを通してやりがいや生きがいを感じることも大事じゃないかな？

社会貢献を考えるきっかけになる！

私は、安心・安全な農作物の栽培について学んでいるよ！

私は、よりよい商品流通のシステムについて学んでいます！

私は、身近な機械の仕組みや性能を、たくさん知りたい！

お互いの意見を出し合う授業によって、自分の考えを深められるんだ！

高等学校でも、職場体験や上級学校体験、社会人講話などを通してキャリア教育が行われています。中学校までのキャリア教育を受けて、高等学校におけるこれらの取組と日々の学習がリンクすることで、高校生としてのキャリア意識・進路意識の向上につながります。

また、県の事業として「専門高校生による小中学生体験学習応援事業」があります（実施校は県が指定）が、この事業とは別に、近隣にある小・中・高が独自に連携し、体験学習を実施している例もあります。

高等学校卒業後、子どもたちが将来に渡って笑顔で充実した人生を送る姿を、常に意識したいものです！

◇ 高等学校をめぐる最近の動向

- (1) 県立高校入試が前期・後期選抜に再編（2020年度の高等学校入学希望者からが対象）
これまでのⅠ期選抜（2月初旬頃）、Ⅱ期選抜（3月上旬）、Ⅲ期選抜（3月下旬）が、前期選抜（3月上旬）と後期選抜（3月下旬）に再編されました。前期選抜は、特色選抜と一般選抜の2種類があり、いずれの場合でも全員に5教科の学力検査が課されます。
- (2) 「大学入学センター試験」（マーク式のみ）が、「大学入学共通テスト」（記述式あり）へ
大学入学共通テスト（2021年度の大学入学希望者からが対象）では、マーク式に加え、記述式問題が導入されます。英語では、「読む・聞く・話す・書く」の4技能が評価されます。
- (3) eポートフォリオによる学びの記録が、大学入試における合否判定材料に
2019年度の大学入学者選抜から、多くの大学がeポートフォリオ（生徒が、学習や部活動、資格・検定、ボランティア等、学校内外での活動記録を自分で入力し、高等学校の教員が入力内容を確認できるシステム）を合否判定材料として活用し始めています。
- (4) 特別な支援を必要とする生徒の確実な引継ぎが、自己有用感や自己肯定感を育む
特別な支援を必要としている子どもたちの情報を中学校から高等学校へ適切に引き継ぐことが、不必要な困難さを感じさせずに生活できる環境整備につながります。本人や保護者の理解を得ながら、高等学校でも自己有用感や自己肯定感が育まれるよう、連携しましょう。

すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～特別支援教育の視点から～



通常の学級にも学びや学校生活に困難さを感じながら過ごしている子どもたちがいます。どうすればいいのでしょうか？

まずは、すべての子どもにとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点で学級全体を支援し、見通しをもって安心して学び、生活することができる環境づくりを行います。その上で、特別な支援が必要な子どもに個別の支援を行うことが有効です。



学級全体への支援と個別の支援をバランスよく行い、自己有用感、自己肯定感を育み、すべての子どものよさや可能性を引き出していきましょう！



～ 困難さに対する個別の支援 ～

学びの困難さには

- Aさんは、授業中に集中が途切れてしまう。
- 座席の位置を工夫する。(廊下側や窓側は避ける、支援しやすい前列や見本になる友達の近くに作る等)
- 活動の終わりを具体的に示す。

- Bさんは、整理整頓が苦手で、授業準備や課題への取組が遅れる。
- 何をどこに置くのかを具体的に決めて写真で示す。
- ケースにしまう、ファイルに綴じるまでを活動にして、学級全体で取り組む。

- Cさんは、板書を書き取るのに時間がかかる。
- 個別にワークシートを活用して書く内容を精選する。
- 書く内容が多い場合には、特別支援教育支援員がホワイトボードなどに書き写し、それを見ながら書き取る。

高めよう！ 自己有用感！ 自己肯定感！

～ 学級全体へのユニバーサルデザイン ～



学習環境を整えましょう！

- 黒板や黒板周りには、その授業に関係するもののみ掲示する。
- 板書を構造化する。(チョークの色使いの統一、学習の流れを示すなど)
- 刺激になるものをカーテンや布で覆う。
- 予定を変更する場合は必ず予告する。(変更となった活動はいつ行うのかも伝える)
- 基準が明確で分かりやすい学級ルールをつくる。



分かりやすく伝えましょう！

- 「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。
- 指示は短く、具体的に伝える。
- 重要なことは、板書する。
- 絵や図、文字などを用いて指示内容や順序を可視化し、見通しがもてるようにする。
- 教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。



称賛し、認めましょう！

- 得意なこと、興味・関心があることに注目する。
- よさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでもらった等の経験ができるようにする。
- 頑張りを認め、あたりまえのことを自然に行っている子どもへの称賛を忘れない。
- ※ 他人への迷惑行為などに対しては、譲らない姿勢で接することが大切です。約束事は学級全体で共有しましょう。

困難さに対する個別の支援内容については、「学習指導要領解説 自立活動編」などを参考に先生方で検討した上で、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」に盛り込みます。担当する先生方で共有、活用し、進級、進学時には適切に引き継ぐようにしましょう。

2つの計画の様式や作り方は、特別支援教育センターHP掲載の「コーディネートハンドブック」を参考にしてください。



学びの困難さに応じた指導の工夫！



学びにくさに応じた工夫にはどんなものがあるのでしょうか？
詳しく知りたいのですが、何か参考になるものはありますか？

小・中学校学習指導要領解説各教科編には、「10の視点」で困難さを見取り、それに応じた指導内容や指導方法の工夫が示されました。



◇ 困難さ【10の視点】

- ① 見えにくさ ② 聞こえにくさ ③ 道具の操作の困難さ
- ④ 移動上の制約 ⑤ 健康面や安全面での制約 ⑥ 発音のしにくさ
- ⑦ 心理的な不安定 ⑧ 人間関係形成の困難さ
- ⑨ 読み書きや計算等の困難さ ⑩ 注意の集中を持続することが苦手

特別支援教育センターHP掲載の「コーディネートハンドブック」には、学習指導要領各教科解説編に対応した具体的な実践事例が、教科ごとに掲載されています。



教科書がうまく
読めないよ・・・



Dさんは、一行とばして読んでしまうことが多いなあ。どんな「困難さ」があるのだろうか？【10の視点】からすると、①・⑨・⑩かな？



Dさんは行を追って読むことが難しいのかな。工夫の意図・手立てに書いてあるように、教科書をちょっと拡大コピーして、読む行に定規を当てて読むようにさせてみよう！

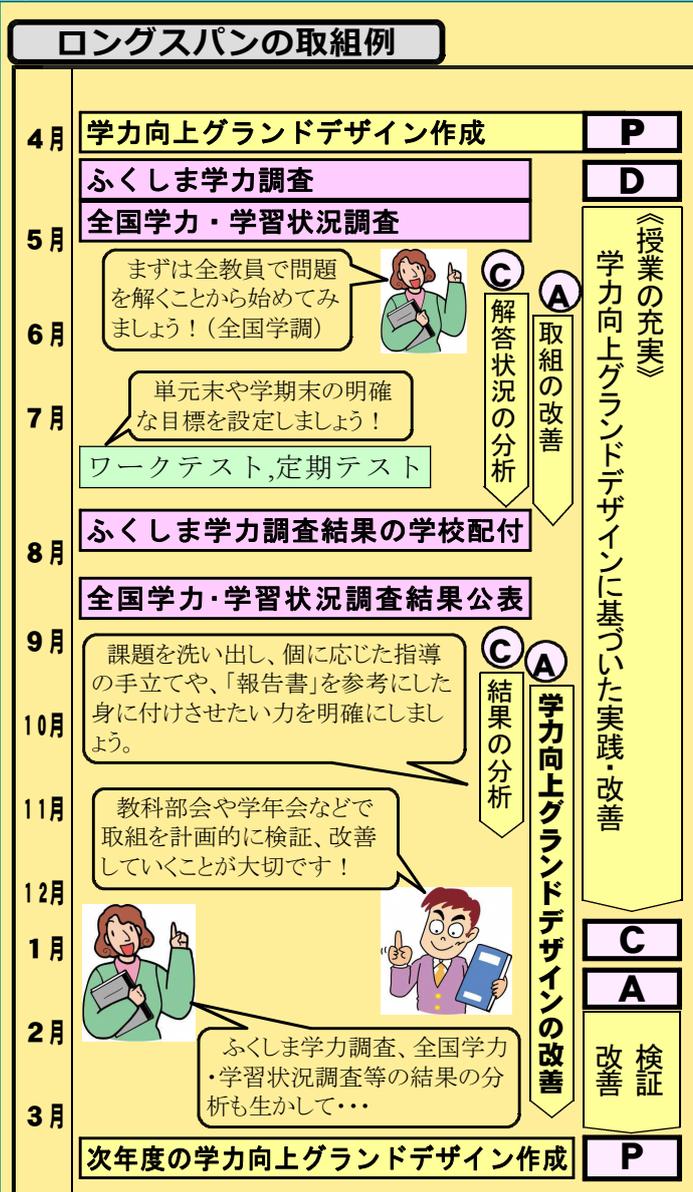
文字が大きくて、見やすいな！定規を当てているからどこを読めばいいかわかりやすくなった！



障がいのある子どもを指導する場合でも、教科等の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意し、指導や手立てを工夫していくことが大切です。

4 明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進

◇ PDCAサイクルで学力向上を！



- ★ ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査や諸検査を活用し、時期をとらえて、Check：分析とAction：改善を行い、取組の改善を進めましょう。
- ★ 福島県内全ての小・中・義務教育学校が少人数教育実践校です。全教員が、少人数教育の「目的」「実践事項」「期待する子どもの姿」を共有し、日目の実践を充実させましょう。

P 実効的な学力向上グランドデザインの作成

- ＜組織的な取組の視点から＞
 - ・ 教科部会、学年会の時間割への位置付け
 - ・ 実施時期、担当者の明確化
- ＜目指す子どもの姿から＞
 - ・ 自校の実態の把握
- ＜授業改善の視点から＞
 - ・ 「主体的・対話的で深い学びの実現」の視点
 - ・ 重点単元の設定
- ＜授業外の手立ての改善の視点から＞
 - ・ 習熟の時間の確保、内容、方法
 - ・ 学習環境の整備、充実
- ＜学習習慣、生活習慣の改善の視点から＞
 - ・ 自己マネジメント力の育成（「家庭学習サポーター」の活用）
 - ・ 読書活動の推進・メディアに関する指導

D 共通実践を全校体制で

- ・ 「授業スタンダード」に基づく実践
- ・ 「家庭学習スタンダード」に基づく実践
- ・ 活用力育成シート
- ・ 学力調査の問題を活用した教材研究
- ・ 互見授業

C 指標を設定して取組の評価を計画的に

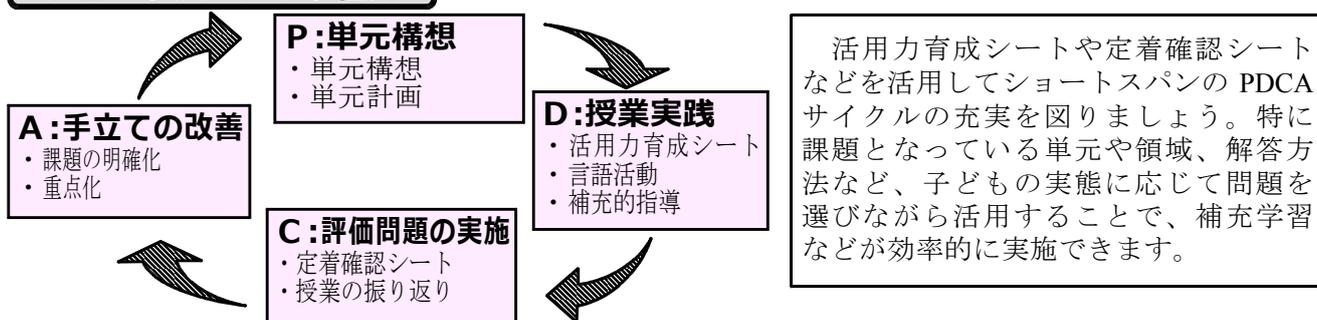
- ＜授業改善へ向け＞
 - ・ 単元（評価）テスト、定期テスト（中）
 - ・ ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査
 - ・ 定着確認シート
 - ・ 授業研究会の自己評価・協議・助言
 - ・ 子ども、教師の自己評価
- ＜学びの基盤形成へ向け＞
 - ・ ふくしま学力調査、全国学力・学習状況調査
 - ・ 家庭学習強化週間・強化月間
 - ・ 保護者アンケート、学校評価 等

A 実施可能な手立てを精選して

- ・ 目標に照らして手立ての改善
- ・ 「報告書」や「授業アイデア例」の活用
- ・ 系統性をふまえた学年ごとの取組の明確化

P よりよい学力向上グランドデザインの作成

ショートスパンの取組例



教科、学年、経験年数などにとらわれず、教師同士、学び合っていきましょう。日常的に授業づくりや家庭学習などについて話し合うことで、「省察」「自己研鑽」に励む教師集団となっていきます。また、要請訪問などを活用して外部講師による具体的な指導・助言を受けることで、自分たちの取組を振り返っていくと、さらに学力向上への意欲が高まります。

< 参考文献・引用文献 >

- 幼稚園教育要領(平成29年3月) 文部科学省
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月)
内閣府、文部科学省、厚生労働省
- 保育所保育指針(平成29年3月) 厚生労働省
- 小学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領(平成29年3月) 文部科学省
- 高等学校学習指導要領(平成21年3月)(30年3月) 文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領(幼稚部・小学部・中学部)(平成29年4月)
文部科学省
- 小学校学習指導要領解説(各編)(平成29年7月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説(各編)(平成29年7月) 文部科学省
- 高等学校学習指導要領解説(各編)(平成21年7月)(30年7月) 文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説(幼稚部・小学部・中学部各編)(平成30年3月)
文部科学省
- 幼児期運動指針(平成24年4月) 文部科学省
- 高大接続改革の実施方針等の策定について 文部科学省
- 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- 学級・学校文化を創る特別活動 中学校編
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- スタートカリキュラムスタートブック(平成27年1月)
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ふくしまの「授業スタンダード」 福島県教育委員会
- ふくしまの「家庭学習スタンダード」 福島県教育委員会
- ふくしまの家庭学習を充実させるために 義務教育課HP
- ふくしまの「家庭学習スタンダード」Q&A 義務教育課HP
- ふくしまの「家庭学習スタンダード」を
活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集 義務教育課HP
- ふくしまっ子 児童期運動指針(平成30年3月) 福島県教育委員会
- 「授業をつくる16の視点」 福島県教育資料研究会
- 「日々の授業のブラッシュアップVol.1」
-授業の基礎/基本「発問、板書、ノート指導」- 福島県教育委員会
- 「日々の授業のブラッシュアップVol.2」
-授業を支える「教材研究、学習指導案、話し合い、基本的な学習習慣」-
福島県教育委員会
- 「授業におけるコーディネート」 福島県教育センターHP
- コーディネートハンドブック 福島県特別支援教育センター
- 全国学力・学習状況調査 解説資料 文部科学省 国立教育政策研究所
- 全国学力・学習状況調査 報告書 文部科学省 国立教育政策研究所
- 初等教育資料(平成26年度～平成30年度発行分) 文部科学省教育課程課
- 中等教育資料(平成26年度～平成30年度発行分) 文部科学省教育課程課